

自然災害発生時における業務継続計画

法人名	NPO 法人 しごとなかま	種別	障害福祉サービス 就労継続支援 B 型
代表者	加藤 篤	管理者	加藤 篤
所在地	大阪府豊中市 東泉丘 1-5-1-106	電話番号	06-6151-2807

1. 総論

(1) 基本方針

施設・事業所等としての災害対策に関する基本方針を記載する。

大地震等の自然災害をはじめとした突発的な経営環境の変化など不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断せざるを得なくなった場合であっても可能な限り短い期間で復旧させるための方針、体制、手順等を示すものである。

(2) 推進体制

平常時の災害対策の推進体制を記載する。

(記入フォーム例)

主な役割	部署・役職	氏名	補足
統括責任 災害対策委員長	統括責任 災害対策委員長	加藤 篤	補佐 石橋由子
BCPの策定及び見直し BCP策定責任者	BCPの策定及び見直し BCP策定責任者	加藤 篤	補佐 石橋由子
職員への研修・訓練の計画 研修・訓練責任者	職員への研修・訓練の計画 研修・訓練責任者	加藤 篤	補佐 石橋由子

(3) リスクの把握

① ハザードマップなどの確認

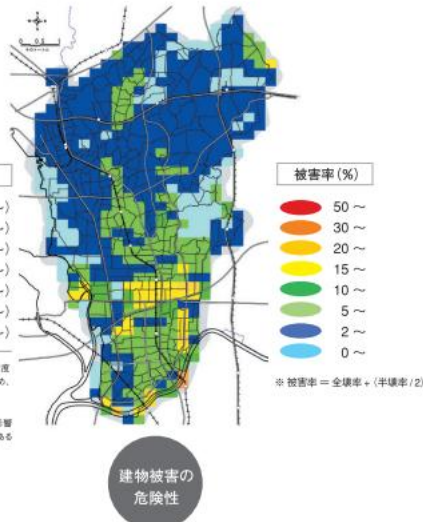
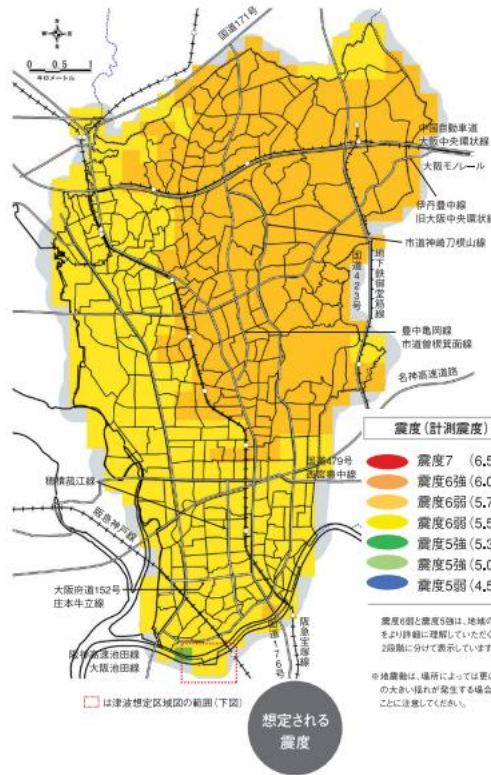
施設・事業所等が所在するハザードマップ等を掲載する（多い場合は別紙として巻末に添付する）。

--

豊中市をとりまく地震環境

海溝型地震(南海トラフ)

- 平成25年度(2013)第4回南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会(大阪府)が公表した地震被害想定結果を表したものです。
- 豊中市では、震度5強から震度6弱のゆれが予想されます。
- 直下型地震と同様に、建物被害は、建物構造や地盤状況などによって被害の大きさが異なります。どの地域にも大きな被害を受ける危険性が潜んでいることに留意してください。



想定される被害

- 建物は揺れが大きいほど、液状化が激しいほど、そして古いものほど、大きな被害を受けやすくなります。また、建物の被害が大きいほど、人的被害や火災発生率も増加する傾向があります。
- この被害想定は、阪神・淡路大震災から得られた教訓や最新の研究成果にもとづき、「想定される地震の揺れの大きさや液状化の程度など」と「現在の建物や人口の分布など」を重ね合わせて算出したものです。

直下型地震

建物被害	全壊棟数と発生率			半壊棟数と発生率		
	木造	非木造	合計	木造	非木造	合計
上町断層帯地震	18,506 (37.8%)	1,218 (6.4%)	19,724 (28.8%)	12,309 (24.5%)	2,475 (13.0%)	14,784 (21.6%)
六甲・淡路島断層帯地震	15,801 (32.0%)	1,035 (5.3%)	16,813 (24.8%)	12,473 (24.5%)	2,323 (12.2%)	14,796 (21.6%)

人的被害	死者数			負傷者数			要援者数		
	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
上町断層帯地震	784	508	548	6,248	4,183	4,332	330	226	231
六甲・淡路島断層帯地震	548	351	370	6,658	4,567	4,700	351	245	249

火災	全出火件数			炎上出火件数					
	3日			1日		1時間			
	早朝	昼間	夕刻	早朝	夕刻	早朝	昼間	夕刻	
上町断層帯地震	34	53	56	23	37	39	12	18	19
六甲・淡路島断層帯地震	28	44	47	18	29	30	9	14	15

平成19年度(2007)調査

- 地震が発生する時間帯
- 早朝: 深夜からの就寝中の時間帯
 - 昼間: 日中の活動の平均的な時間帯
 - 夕刻: 通勤・通学者が多く、火気使用率も高い時間帯
- ※3日、1日、1時間は地震発生後の期間を示す

海溝型地震

建物被害	全壊棟数と発生率			半壊棟数と発生率		
	木造	非木造	合計	木造	非木造	合計
南海トラフ	991 (1.9%)	69 (0.3%)	1,060 (1.4%)	6,609 (12.7%)	337 (1.3%)	6,947 (10.0%)

※揺れと液状化による全壊棟数と半壊棟数

人的被害	死者数		負傷者数		要援者数	
	夏12時	冬18時	夏12時	冬18時	夏12時	冬18時
南海トラフ	13	16	321	420	20	20

※建物損壊のみによる人的被害

火災	全出火件数		炎上出火件数	
	夏12時	冬18時	夏12時	冬18時
南海トラフ	9	11	1	1

※平成25年度(2013)第4回南海トラフ巨大地震災害対策検討部会(大府府)資料

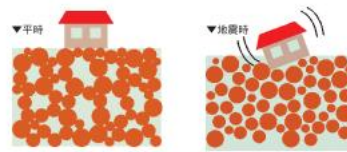
液状化の危険性

- 液状化現象は比較的小さな地震でも発生しやすく、建物を傾けたり、ライフラインなどに多大な被害を及ぼしたりする要因となります。
- 図は地域の液状化発生の危険度を示しています。



液状化現象とは

液状化現象は、緩くたい積した砂層や土砂で埋立てられた地盤に、地震の揺れが作用することによって発生します。この現象は、その名のように地盤が液体状になる現象で、地盤のずれが建築物や土木構造物に被害を誘発します。



液状化発生のイメージ(地盤と建物の縮尺は異なります)

豊中市をとりまく地震環境

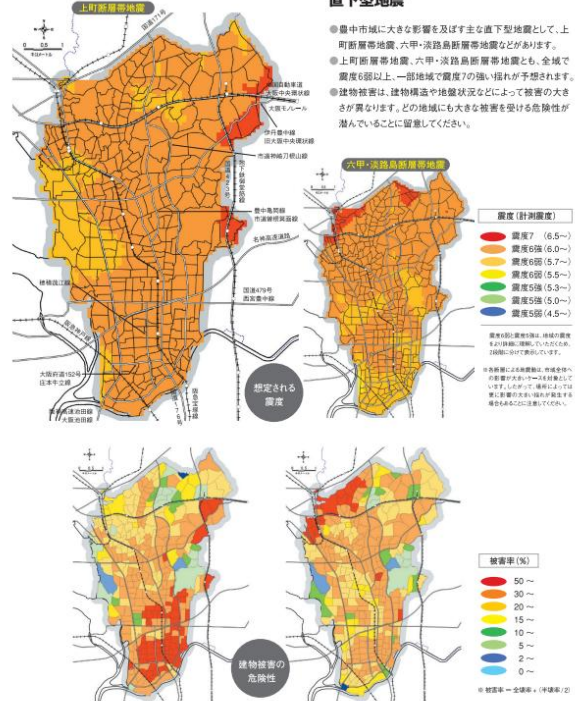
地震の大きさ、揺れの強さ(マグニチュードと震度)

- ◎地震の大きさと揺れの強さは、「マグニチュード」と「震度」で表されます。
- ◎「マグニチュード」(M)は、地震そのものの規模(エネルギーの大きさ)を表します。マグニチュードが1大きくなれば、エネルギー量は約30倍大きくなります(M8地震はM7地震の約30倍の大きさ)。
- ◎「震度」は気象庁が定めたもので、それぞれの場所における揺れの強さと被害の程度を表します。現在、テレビなどに連絡される震度は、地震計の観測値から算出された震度です。

震度 (計測震度)	揺れの状況	屋内	屋外	過去の地震
7 (6.9以上)	◎劇震性の低い木造建築物は、傾くものや、倒れるものが非常に多くなる。 ◎劇震性の高い鉄骨コンクリート造の建築物では、倒れるものも多くなる。			北条海部断層の地震 平成30年(2018年) 野田地震 平成28年(2016年) 平成27年(2015年) 東海地震 平成18年(2006年) 北条海部断層の地震 平成17年(2005年)
6強 (6.0以上6.9未満)	◎はかばかと動くことができる。用がたれることもある。 ◎固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものも多くなる。 ◎劇震性の低い木造建築物は、傾くものや、倒れるものも多くなる。 ◎大きな揺れが生じたり、大規模な土すべりや山体の崩壊が発生することがある。			岩手-宮城内陸地震 平成30年(2018年) 新近江中沖沖地震 平成18年(2006年) 新近江中沖沖地震 平成19年(2007年) 高野原断層の地震 平成12年(2000年)
6弱 (5.0以上5.9未満)	◎立っただけで困難になる。 ◎固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ◎車のタイヤや窓ガラスが割れ、落下することがある。 ◎劇震性の低い木造建築物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。			近江沖地震 平成19年(2007年) 福沢断層沖地震 平成17年(2005年)
5強 (4.5以上4.9未満)	◎物につかまらないうまく歩くことが難しい。 ◎車にある支物棒や傘が落ちるものも多くなる。 ◎固定していない家具が倒れることがある。 ◎傾倒していないプロップが倒れることがある。			大塚沖地震 平成30年(2018年)
5弱 (4.0以上4.4未満)	◎大半の人が、恐怖を覚え、物につかまらなうと感じる。 ◎車にある支物棒や傘が落ちることがある。 ◎固定していない家具が移動することがあり、不安定なものも倒れることがある。			
4 (3.0以上3.9未満)	◎ほとんどの人が驚く。 ◎電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ◎振り回し易い物が、倒れることがある。			

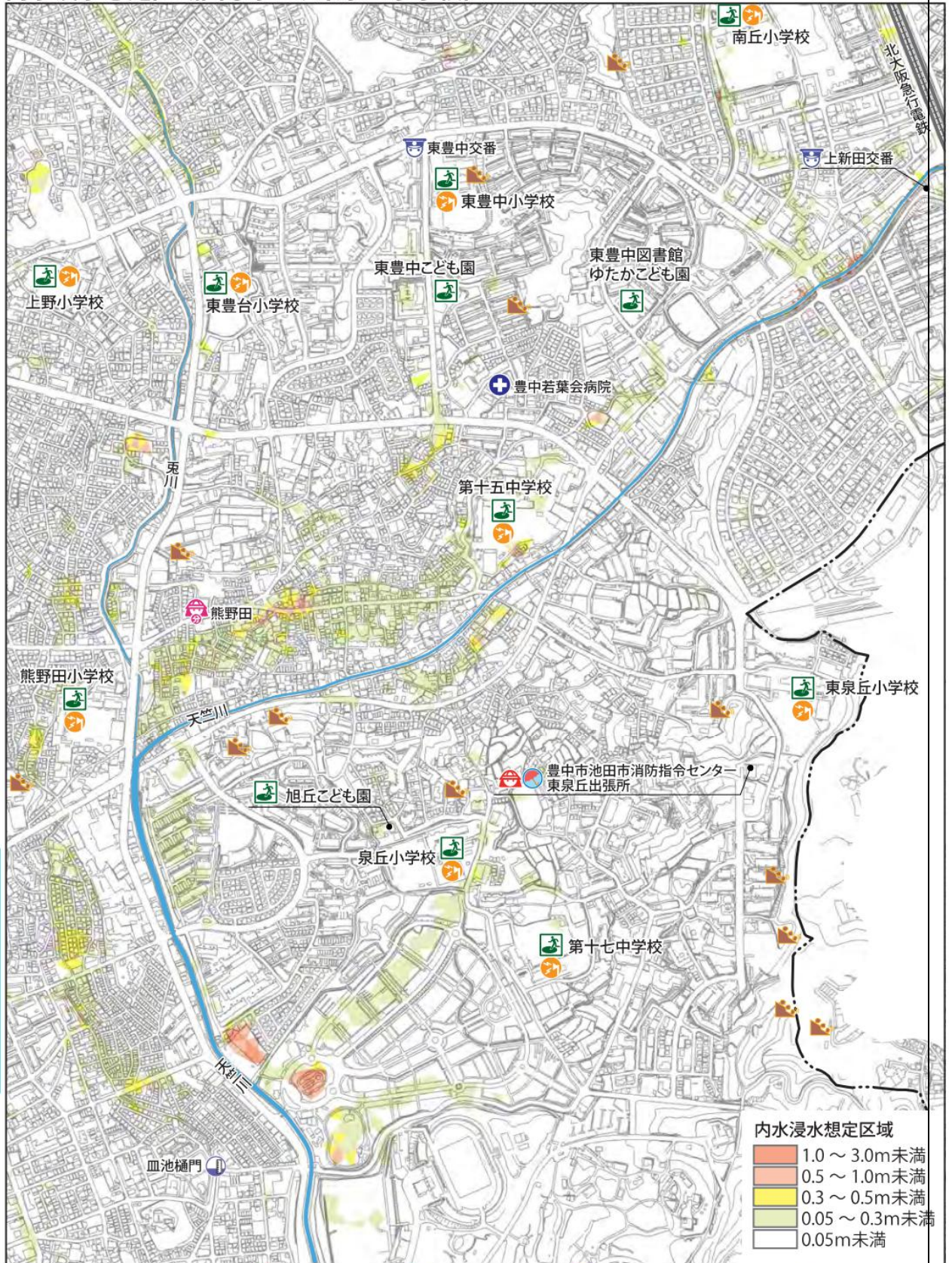
直下型地震

- ◎豊中市域に大きな影響を及ぼす主な直下型地震として、上町断層帯地震、六甲-淡路島断層帯地震などがあります。
- ◎上町断層帯地震、六甲-淡路島断層帯地震とも、全域で震度6弱以上、一部地域で震度7の強い揺れが予想されます。
- ◎建物被害は、建物構造や地盤状況などによって被害の大きさが異なります。どの地域にも大きな被害を受ける危険性が潜んでいることに留意してください。



4. 浸水ハザードマップ

内水浸水想定区域図⑩泉丘、東泉丘小学校区



- 45 凡例
- | | | | | |
|----------|----------|-------------|---------|--------|
| 指定緊急避難場所 | 市役所 | 災害医療センター | 防災スピーカー | 水位観測所 |
| 消防署・出張所 | 災害医療協力病院 | 千里川水位情報システム | 雨量観測所 | アンダーパス |
| 消防分団 | 警察署・交番 | 千里川非常放送設備 | | |

【自施設で想定される影響】

	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
電力	停電	閉鎖	→	復旧後再開	→	→
飲料水	ウォーターサーバー ペットボトル、お茶	閉鎖	→	ウォーターサーバー ペットボトル、お茶	復旧	→
生活用水	断水	閉鎖	→	復旧または給水車	→	→
ガス	使用せず	-	-	-	-	-
携帯電話	各自					
メール	各自携帯電話から					

(4) 優先業務の選定

① 優先する事業

複数の事業を運営する施設・事業所等では、どの事業（入所、通所、訪問等）を優先するか（どの事業を縮小・休止するか）を法人本部とも連携して決めておく。

<優先する事業>

- (1) ゆずりは作業所
- (2) 施設外就労
- (3) 送迎

<当座休止する事業>

- (1) 送迎
- (2) 施設外就労
- (3) ゆずりは作業所

② 優先する業務

上記優先する事業のうち、優先する業務を選定する。

(記入フォーム例)

優先業務	必要な職員数			
	朝			
飲料水	20 人	1		
昼食	20 人	1		
送迎	6 人	2		

(5) 研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し

① 研修・訓練の実施

年に2回の消防訓練時に。

② BCPの検証・見直し

評価プロセス

消防訓練時、職員研修時等に見直しを検証する。

2 平常時の対応

(1) 建物・設備の安全対策

① 人が常駐する場所の耐震措置

場所	対応策	備考
ゆずりは作業所	耐震基準に対応せず	地震災害時→避難場所

② 設備の耐震措置

集合住宅の一室である賃貸契約のため耐震設備設置は困難。

大型の棚に関してはストッパー、耐震ダンパー等の耐震措置を検討する

(2) 電気が止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と自家発電機もしくは代替策を記載する。

稼働させるべき設備	自家発電機もしくは代替策
なし	集合住宅のため困難

水害対策

対象	対応策	備考
作業所	ハザードマップ上対象外	

(3) ガスが止まった場合の対策

ガス利用なし

(4) 水道が止まった場合の対策

被災時に必要となる飲料水および生活水の確保を記載する。

① 飲料水

ペットボトル水備蓄。お茶は毎日用意している。

② 生活用水

生活用水は備蓄のみとなっている。

断水が事前に想定される場合はバケツ 3 つに汲み置く。

(5) 通信が麻痺した場合の対策

被災時に施設内で実際に使用できる方法(携帯メール)などについて、使用可能台数、バッテリー容量や使用方法等を記載する。

→ 携帯電話／携帯メール／PCメール／SNS等

固定電話、携帯電話、携帯メール、LINE にて連絡を取り合う。必要に応じて SNS も利用する。

(6) システムが停止した場合の対策

電力供給停止などによりサーバー等がダウンした場合の対策を記載する(手書きによる事務処理方法など)。

- ・ 浸水リスクが想定される場合はサーバーの設置場所を検討する。
- ・ データ類の喪失に備えて、バックアップ等の方策を記載する。

バックアップはクラウドを利用している。

衛生面(トイレ等)の対策

① トイレ対策

市販されている非常用トイレの備蓄および市指定ゴミ袋と新聞紙利用にて対応

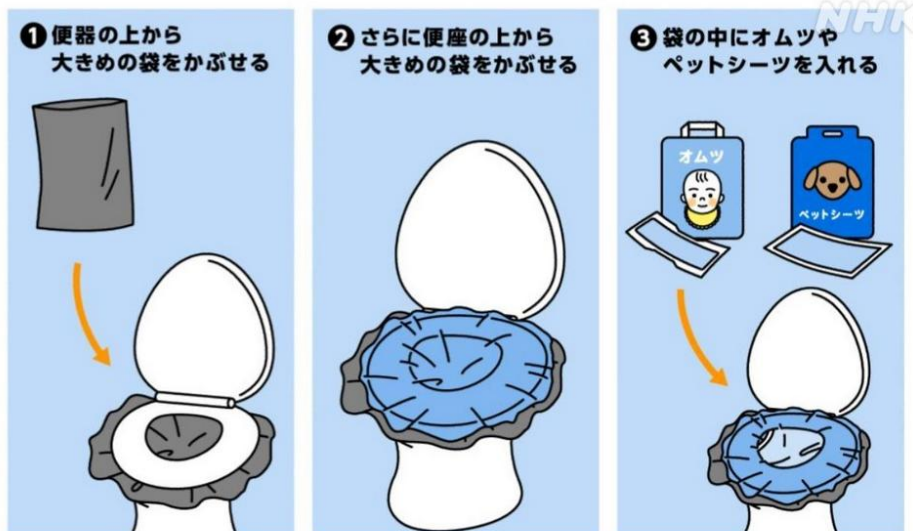


地震などの災害で断水しトイレの水が流せない…地震で壊れてトイレが不足している…。そんなときに自分たちで簡易なトイレを作る場合のポイントです。

2024年能登半島地震関連ニュースなどで紹介

簡易トイレを作るには

携帯トイレなど災害用のトイレを使うのが望ましいですが、無ければ次の方法で代用できます。



- ① 便器の上から大きめのポリ袋をかぶせる
- ② さらに便座の上から大きめの袋をかぶせる
- ③ 袋の中にオムツやペットシートなど吸水性のあるものを入れる
- ④ 捨てるときは袋をしっかり結んでまとめ、ゴミ収集ができる状態になったら自治体の指示に従って廃棄
- ⑤ 手指を洗う

ペットシーツの代用として新聞紙も利用する

② 汚物対策

排泄物や使用済みのオムツなどの汚物の処理方法を記載する。

上記参照

(8) 必要品の備蓄

被災時に必要な備品はリストに整理し、計画的に備蓄する（多ければ別紙とし添付する）。定期的にリストの見直しを実施する。備蓄品によっては、消費期限があるため、メンテナンス担当者を決め、定期的買い替えるなどのメンテナンスを実施する。

【飲料・食品】

品名	数量	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
ビスコ	30 枚×5	2029.9	冷蔵庫上	加藤
ようかん	20	2029.9	冷蔵庫上	加藤
おにぎり	30	2029.8	冷蔵庫上	加藤

【医薬品・衛生用品・日用品】

品名	数量	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
絆創膏	50	—	休憩室棚上	加藤
アルコール綿	3	—	休憩室棚上	加藤
マスク	100	—	休憩室棚上	加藤
包帯	1	—	休憩室棚上	加藤
指用ネットタイ	3	—	休憩室棚上	加藤
滅菌ガーゼ	10	—	休憩室棚上	加藤

【備品】

品名	数量	保管場所	メンテナンス担当
体温計	2	休憩室棚上	加藤
ピンセット	1	休憩室棚上	加藤
ハサミ	1	休憩室棚上	加藤
耳かき	1	休憩室棚上	加藤

(9) 資金手当て

災害に備えた資金手当て（火災保険など）を記載する。

緊急時に備えた手元資金等（現金）を記載する。

東京海上日動火災保険

*地震保険の保険契約については地域によって制限がある。

緊急時の対応

4. 他施設との連携

(1) 連携体制の構築

① 連携先との協議

連携先と連携内容を協議中であれば、それら協議内容や今後の計画などを記載する。

必要に応じて協力医療機関（小曾根病院）と連携する。
各利用者を担当している相談支援専員およびケアマネジャーと連携する。
必要に応じて利用者が利用している他のサービス機関と連携する。

②地域のネットワーク等の構築・参画

施設・事業所等の倒壊や多数の職員の被災等、単独での事業継続が困難な事態を想定して、施設・事業所等を取り巻く関係各位と協力関係を日ごろから構築しておく。地域で相互に支援しあうネットワークが構築されている場合はそれらに加入することを検討する。

【連携関係のある施設・法人】

施設・法人名	連絡先	連携内容
株式会社オキュペーション	06-6336-1750	施設外就労先

【連携関係のある医療機関（協力医療機関等）】

医療機関名	連絡先	連携内容
小曾根病院	06-6332-0135	医療機関

【連携関係のある社協・行政・自治会等】

名称	連絡先	連携内容
豊中市社協	06-6841-9393	社会福祉協議会

(2) 連携対応

① 事前準備

連携協定に基づき、被災時に相互に連携し支援しあえるように検討した事項や今後準備すべき事項などを記載する。

施設外就労先にて被災した場合の連絡体制。
作業所と施設外就労先のどちらかのインフラの被災が免れた場合の協力。

② 共同訓練

連携先と共同で行う訓練概要について記載する。

避難経路の確認、消化器の設置場所、避難場所の確認（庄内さくら学園、イオンタウン豊中庄内）

5 地域との連携

(1) 被災時の職員の派遣

(災害福祉支援ネットワークへの参画や災害派遣福祉チームへの職員登録)

地域の災害福祉支援ネットワークの協議内容等について確認し、災害派遣福祉チームのチーム員としての登録を検討する。

検討する。

(2) 福祉避難所の運営

① 福祉避難所の指定

福祉避難所の指定を受けた場合は、自治体との協定書を添付するとともに、受入可能人数、受入場所、受入期間、受入条件など諸条件を整理して記載する。

社会福祉施設の公共性を鑑みれば、可能な限り福祉避難所の指定を受けることが望ましいが、仮に指定を受けない場合でも被災時に外部から要援護者や近隣住民等の受入の要望に沿うことができるよう上記のとおり諸条件を整理しておく。

耐震基準でないため地震災害の場合の受け入れは難しい。
風水害その他の場合はベッド等横になるスペースと寝具もないため受け入れ困難。

② 福祉避難所開設の事前準備

福祉避難所として運営できるように事前に必要な物資の確保や施設整備などを進める。

また、受入にあたっては支援人材の確保が重要であり、自施設の職員だけでなく、専門人材の支援が受けられるよう社会福祉協議会などの関係団体や支援団体等と支援体制について協議し、ボランティアの受入方針等について検討しておく。

数日分の飲料水、保存食は確保しているが、通所利用者と職員分しか確保できていない。

<更新履歴>

更新日	更新内容	更新者
2024・3・1	作成	加藤

(参考)

記入フォーム例



(参考) 記入フォーム例

【様式①】 自施設の被災想定

	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	・・・
(例) 電力	停電→		復旧	→	→	→	→	→	→	→
電力	停電	停電	復旧	→	→	→	→	→	→	→
飲料水	断水備蓄	断水備蓄	復旧	→	→	→	→	→	→	→
生活用水	断水	断水	給水車→	給水車→	給水車→	復旧	→	→	→	→
携帯電話	混乱	復旧	→	→	→	→	→	→	→	→
メール	混乱	復旧	→	→	→	→	→	→	→	→

【様式②】施設・設備の点検リスト

場所/対象	対応策	備考
建物（壁）		
建物（天井）		
棚		
トイレ下		
トイレ上		
キッチン		
洗面下		
洗面上		
棚下		
棚上		
外壁	管理組合および管理会社	
周囲に倒れそうな樹木や飛散しそうな物はないか		

	無事・死亡・負傷・不明	
	無事・死亡・負傷・不明	
	無事・死亡・負傷・不明	
	無事・死亡・負傷・不明	
	無事・死亡・負傷・不明	
	無事・死亡・負傷・不明	
	無事・死亡・負傷・不明	
	無事・死亡・負傷・不明	
	無事・死亡・負傷・不明	
	無事・死亡・負傷・不明	
	無事・死亡・負傷・不明	

【様式⑤】 職員の安否確認シート

職員氏名	安否確認	自宅の状況	家族の安否	出勤可否
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()

【様式⑥】 建物・設備の被害点検シート

対象		状況 (いずれかに○)	対応事項/特記事項
建物・設備	躯体被害	重大／軽微／問題なし	
	エレベーター	利用可能／利用不可	
	電気	通電 / 不通	
	水道	利用可能／利用不可	
	電話	通話可能／通話不可	
	インターネット	利用可能／利用不可	
(フロア単位) 建物・設備	ガラス	破損・飛散／破損なし	
	キャビネット	転倒あり／転倒なし	
	天井	落下あり／被害なし	
	床面	破損あり／被害なし	
	壁面	破損あり／被害なし	
	照明	破損・落下あり／被害なし	